

まちづくり懇談会 からくわルーキーズサミット “唐桑観光ぼっばら会議” 報告書

文責: 岡崎真弓

—実施日時—

2013年5月25日(土)

—実施場所—

リアス唐桑ユースホステル

—主催—

気仙沼市

からくわ丸-Karakuwa Designers League

—ゲスト—

唐桑町観光協会 三上忠文会長

佐藤和則さん

—参加者—

伊藤大知(中井)・遠藤友泰(宿)・小野寺充太(崎浜)・梶原幸河(松園)・熊谷光広(大沢)・金野諒(舞根)・立花淳一(崎浜)・玉川菜保美(中)・千葉幸美(大沢)・星英伯(大沢)・三浦怜(崎浜)・吉田和典(小鯖)・織笠英二・田辺紀博・犀川由香利・加藤拓馬・岡崎真弓

…計 17 名 敬称略 (うち、地域住民 12 名はカッコ内に出身地区名記載)

(+ 宿泊客の伊戸河さん・三陸新報取材の守さん)



▲ 三上会長の講話

—テーマ—

「観光」。唐桑町観光協会の会長三上忠文さんに唐桑の観光の今昔を話していただき、唐桑の観光を盛り上げるためのアイデアを出す会。その名も“唐桑観光ぼっばら会議”。

—実施スケジュール—

| | |
|-------|----------------------------------|
| 19:30 | 開会 資料配布、自己紹介 |
| 20:00 | 三上会長講話 唐桑の観光の今と昔について 質問タイム |
| 21:00 | ワークショップ 「唐桑の観光のここがよくない・こんなことしたい」 |
| 22:30 | 懇親会 フリートーク |

—実施記録—

【唐桑町観光協会 三上忠文会長による講話概要】

三陸復興国立公園の創設について

2013年5月24日、陸中海岸国立公園は「三陸復興国立公園」と名称を変えた。この名称の変更に伴い、エリアを拡大し、青森県八戸市から宮城県石巻市・女川町までとした。唐桑では、巨釜、半造、御崎の3つのエリアが指定されている。

前身陸中海岸国立公園の創設について

ハンセン病回復者で厚生労働省とのかかわりがあった唐桑出身の鈴木重雄さんの尽力のお陰。

エコツーリズム(環境省)

エコ≠省エネ エコ=自然、生態系

昨年より唐桑モデル地区に認定された。自然を通じて唐桑を売り出そう！

昔からやっていることを体験してもらおう。そのために、まずは唐桑の文化などを拾い出す作業をしている最中。

観光にはネームバリューが必要

昔は観光客を引き寄せるために、観光業界の人たちは「国立公園」の指定を求めた。今は「世界遺産」や新しいものでは「ジオパーク」などのネームバリューを求める。

ジオパークとは

地形や自然災害などの自然環境をいかして教育から観光、産業まで全体的な地域の向上を目指す。ジオには地球という意味がある。

東北海岸トレイル

長距離にわたる遊歩道。唐桑でも遊歩道を整備しようという動きが始まっている。

自分の足で歩く。その中で出会う人とお茶をするものよし！くまなく歩く！

半島の観光の欠点

半島の先の方まで行ってくれない。いかに半島の先端まで客を寄せられるかが勝負。

【質問タイム】

国立公園に指定されて、どんな変化があったか。

→ニュースなどのメディアに折石が映ることによって、地元民が誇りを感じるようになった。

エコツーリズムは具体的にどのようなものを行っているのか。

→漁業体験や打ち囃子体験、はじき猿作りなどをやっていく。これは以前から観光協会でも行っていた。

地元民がエコツーリズムの内容を知らない。

→全町民に理解してもらうことは大切。理解してもらった上で協力してもらえることが望ましい。

また、全国にいる唐桑のファンにそれを発信してもらうことも重要。→「ひとり観光協会(案)」

80年代の全盛期の様子。

→年間約50万人が唐桑を訪れていた。ちなみに今は約35万人程度。そのうち唐桑に宿泊する観光客は今も昔も2%ほどでほとんどが気仙沼市内中心部に宿泊してしまう。

昔は御崎のキャンプ場にも観光客が集まった。日の出ツアーもした。

今は家からキャンプ場などへ、ドアトゥードアなので、その間やキャンプ場周辺を歩かなくなった。

ターゲットとしては、現役をリタイアした60代くらいの方。時間もお金も余裕がある。

【ワークショップ「唐桑の観光のここがよくない・こんなことしたい」の記録】

唐桑の観光の課題、または盛り上げるためのアイデアをポストイットに書いて、模造紙に貼っていくワークショップ。それらをカテゴリー分けして、全て以下に記載。

◇唐桑の観光のここがよくない

整備不足

<観光スポット・施設>

- 遊歩道(サインがない、整備不十分)
- 大理石海岸遊歩道立ち入り禁止
- 早馬山展望台立ち入り禁止
- 観光案内所がない
- 泳ぐ所がない
- 運動場がない
- 宿泊施設が少ない
- 御崎方面に食堂がない

(コメント)

- 遊歩道や早馬山展望台はとてももったいない。
- 宿泊客を気仙沼にとられているので、唐桑も宿泊施設を強化した方がいい。
- 食事処が固まっているから、混むことも多々ある。→以前はたくさんあったけど客が減って店を閉めてしまった。

<グッズ・お土産>

- オーレ君の着ぐるみがない
- 唐桑の土産がPRされていない
- お土産が少ない

(コメント)

- 唐桑のお土産はこれ！というものが欲しい。土地勘のない人がとりあえず買っていけるようなお土産。「お菓子の花子」の「大唐桑」?を推すのはいかがでしょうか。

住民の認知不足・発信不足

<住民の認知不足>

- 地域の魅力を知らない(2票)
- 住民の意識の低さ
- 国立公園などのことをよく知らない
- 気仙沼になくて唐桑にあるものが分からない



▲ アイデア出しワークショップ

<交通・アクセス>

- バスの便が悪い
- 駐車場が少ない
- 南にガソリンスタンドがない
- レンタサイクルがない
- 看板が少ない→名所までの行き方不明
- 電波がない

(コメント)

- 交通の便が悪いと客が離れていく。
- 電波のないところが多すぎ。

<住民の発信不足>

- アピールが弱い(3票)
- 季節のイベントが少ない
- イベントの発信力がない

(コメント)

- 地区ごとのイベントをもっとしっかりPRすることで外からの観光客が来るのでは。(もちろん地区間交流も進む)
- 詳しくなくても地元の人が観光案内できるように

若者に関する課題

話し合いに地元の若者が入っていない
若者にとって今の事業はまじめすぎ
地元の人巻き込みが弱い
地区・年齢等のしがらみが強い
話し合いをしていることを知らない

観光事業のシステムが分からない
全体的に地味
若者が「唐桑の魅力」をダサイと思っている
東京・仙台等に出っぱなし

(コメント)

- 自分たちの知らないところでいろいろ決まっているので、文句が出てくる。年配の方、若者関係なく唐桑を考える場が必要。
- 唐桑はダサイと思っていたが「まち歩き」をして変わった。
- 話し合いに興味を持たない、情報を集めようとしていない若者側にも問題がある。

◇唐桑の観光でこんなことしたい

まち全体で観光

ムーミン谷をモチーフにしたオーレ村
柚子の町にたい
ミニ長崎のまち

客船復活
ニホンシカを放したまち

(コメント)

- オーレ君は15年前にできていた。ホヤぼーやより先にできていたのにかわいそう。ホヤぼーやは最初悪評だった。ムーミン谷のイメージでオーレ村をつくると面白い。

観光スポット・施設

<新しく欲しい>

パワースポット
猫バスの見られるポイント
スポーツ公園
唐桑近辺で捕れる海産物メインの水族館
ローマの遺跡が見えそうなポイント
海の公園
穴戸錠が買いたいといった1億円のビュー
スポット
博物館
夕陽が入ると愛が実するというスポット
太平洋に向かって愛を叫ぶポイント
観光案内所(半島入口)

<今あるものの強化>

大理石海岸
唐桑城跡
逆さ杉
鯨塚
おぬまめぬま(縁結び)
九九鳴き浜の再生
早馬山展望台整備
遊具進化

(コメント)

- 唐桑城跡はふるさと学習で訪れるだけだが、PRの仕方次第で観光スポットになるので。

(コメント)

- 愛を叫ぶスポットなどはお金がかからなくていい。

<宿泊>

自然村(宿泊施設)
民泊キャンペーン

ツアー・体験

唐桑の歴史・伝説めぐり
ヤブツバキの散策路
地福寺の二本杉
ヨーロッパに負けないドライブコース
大沢水源探し
リンゴの散策路
砂金採り体験
白魚の踊り食い
霧のむせぶ夜の体験
つりぼり
ダイビングスクール
ヨットスクールの開設
カモメの調教
船乗りのホラ話
からくわ女(気がつよい)

(コメント)

- 唐桑の水はすべて大沢から引いていると聞いて驚いた。山野草を見ながら、その水源を探すと面白いのでは。

イベント

サンライズクルージン
唐桑に泊まろう(田舎に泊まろうに因んで)
釣り大会
夏祭りお神輿復活
KARAKUWA Girls コレクション
まちをあげてお祭りモード
あまちゃん唐桑バージョン(じえじえ→ばば…)
拡大版牡蠣祭り(みんな仕事休むくらい)

(コメント)

- 釣り大会はまち全体でできるし、年齢層も関係ない。唐桑の自然と関われる機会になる

子供向け

唐桑ものがたり紙芝居
子ども会議
子どもを対象としたキャンプ

観光強化(ソフト面)

ゆるキャラ2トップ(ホヤぼーや&オーレ君)でバックアップ
オーレ君 or 新しいゆるキャラグッズ販売
オーレ君のアニメ化
椿油の復活
B級グルメ
まちのキャッチコピー

(コメント)

- B級グルメは観光の起爆剤になるのでは。



▲ 唐桑の観光のここがよくない



▲ 唐桑の観光でこんなことしたい

【ゲスト・参加者からのひとこと】

佐藤和則さん

まちづくりは地域間競争ではない。唐桑もよくなって、他のまちもよくなるという方法がベスト。こういうやり方を考える必要があると思う。

星英伯さん(大沢地区より)

小原木と唐桑で協力してまちづくりを行っていききたい。まずは若者の意識を変えていかなければならないと思う。

立花淳一(からくわ丸代表)

この場で話し合ったことが今後どのような形になるかは分からない。しかし、この場が第一歩だと思う。これを続けていけば、少しずつでもいい町になるのではないかと思う。

三上忠文会長

30年前、自分たちは自己満足でやっていて、後継者を作らなかった。次につながるようなまちづくりが必要。震災で犠牲になった方、被災した方への配慮は絶対に必要だが、今が絶好の機会だと思う。

—成果—

・Facebookでの広報

→当日は大沢地区から崎浜地区までの唐桑全域より10代～40代の男女約20名が参加した。共催であるからくわ丸のメンバー以外の若者にも参加してもらった。

・ワークショップではアイデアがたくさん出た

→地域資源を活かしたアイデアや若者ならではの発想がたくさん出ていた。

—次に向けて—

・ワークショップの方法

→出た意見のシェアを丁寧にする。

・アイデアの活用方法の検討

→ワークショップで出たアイデアを次にどうつなげるかを検討する。

・唐桑に限らず全市的な企画に

→今回は唐桑地区からのみの参加だったので、次回からは市内全域からの参加を促す。